



KENMEI GAKUIN

2024年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

令和6年度(2024年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1、本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—
カトリックの精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き、人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

安心できる整えられた環境の中、自主自立を確立させ、心身の調和がとれた人格を形成する

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1、宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	・シスターの話を聞き、行事について理解を深めたり、「自分のできる良いこと」を年間通してマリア様にお花をお捧げする活動を実施した。それにより子どもたちや教員が保育の中でさらに意識して、他者を思いやり過ごすことができた。 ・毎日、朝や昼食時、帰りの祈りに取り組み、自分の言葉で共同祈願を考え、すべての行事に参加することができた。
2、自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	・個々の様子について観察や記録をとり、適切な援助ができるように全職員で共通理解し、指導にあたった。 ・自分のしたいことが見つけられるよう保育室の環境を整えるよう努めた。その結果、興味のある活動を自主的に選び、一つの物事に対して最後までやり遂げられる姿が見受けられるようになってきた。
3、未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	・未就園児クラスでは母子同室クラスと母子分離クラスがあり、子育てのサポートを行っている。母子分離クラスは、幼稚園と同じように生活を行うことで入園前の準備期間になるようにした。行事の面においても参観を実施した。また、製作を持ち帰ることで幼稚園での活動内容が形になるように工夫した。満3歳児クラス入園時には、保護者や子どもが安心して入園できるように導入保育を行う。また、低年齢に応じたモンテッソー

	り教材を手作りし、家庭でも実践できるようにした。
4、英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ、楽しみながら学んでいる。	・季節の単語や歌を取り入れ、英語が身近に感じられるよう工夫した。 ・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように、個人のテキストを使って英単語に慣れるようにした。また、習った英単語や英語の歌、英語劇を発表会で披露する機会を設け、子どもたちの自信に繋がった。また年長児対象ではあるが、希望で英検 Jr に挑戦した。
5、教員は資質を向上させるため、研鑽する。	・教員が意欲的に学べるよう教員の学びたい分野を聞き取りながら、モンテッソーリ教育の園内研修を行い、教具の練習の機会を設けた。園内研修では、モンテッソーリのお仕事の時間で実施した。また、他の教員も観察することで教員同士の学び合いにもなった。その他、カウンセリング研修・宗教研修を実施した。幼児教育/保育実践/絵画など、専門分野においても個人で研修を重ねてきた。 ・毎月の職員会議では、子どもの様子を振り返り、教員としての観察力を高めている。
6、保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。	・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらも、月一回の幼稚園集会を全学年で実施することができた。毎月、動画を作成し子どもたちの様子と共に園の教育方針や行事についてより深く理解してもらうきっかけになった。SNS を積極的に活用し保護者の満足度に繋がるように引き続き工夫していく。 ・預かり保育利用の保護者に対しても各担任が降園時に子どもたちの様子を伝えるなど配慮を実施してきた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

幼稚園型認定こども園として初年度を終えたが、大きなカリキュラムの変更もなく、私学助成園の時と同様の教育を提供できた。そのことにより、保護者からの満足度も高かった。さらに私たち教員一人ひとりが一丸となり、子どもたち・保護者に寄り添い教育していく姿を感じ、理解してくださった結果でもあると捉えている。引き続き、子どもたち・保護者の皆さま方が安心した幼稚園生活を送れるよう引き続き、子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成していくことに努めていく。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	・日常の生活や行事を通して子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育て、そのための整えられた環境を準備する。 ・ケース会議を設け、一人ひとりに応じた援助内容を共有し、全職員で指導にあたっていく。

保護者への対応	・毎月実施の幼稚園集会や、送迎時に保護者の方々とコミュニケーションをとる機会を電話連絡や SNS などで工夫する。
体力の増進	・園庭も広く環境を充実しているため、室内や戸外での運動遊びの研究を行い、子どもたちの発達段階に応じた内容を取り入れていく。
宗教教育	・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、他者に思いやりの気持ちを育むようにする。また、日常生活を通して、身近にいる人を思いやる気持ちを育む。 ・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を具体的な事項として考え、実践する。

6、学校関係者の評価

別紙の通り

7、学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2024 年度 賢明学院小学校 学校評価PDCA

学 校 名:賢明学院小学校
評価責任者:校長 谷口 晋哉

2025 年2月22日 報告

	Plan		Do	Check		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度	◆今後の改善方策
1	建学の精神を教育活動の土台とし、校訓を体現する児童の育成を目指す	① 祈りを通じて神への畏敬の念を養う教育活動ができている。	① 日々の祈りや祈りの集い、ミサでは一人一人が心を合わせて祈り、祈りの習慣を身につける。	① 児童・保護者ともお祈りを大事にし、お祈りは心を育むものという思いをほぼ共有できている。	目標 100% 98.8%	① 保護者のカトリック教育への理解には、様々な解釈があるようにも見られる。保護者へも教えについて知る機会を増やすなど、発信の形を工夫する。カトリック学校の一員としての学校生活を充実させられるような、活動の場を保護者にも増やす。
		② 創立者について学び、賢明生としての自覚を高める教育活動ができている。	② 教職員自身が聖マリー・リヴィエについての学びを深め、児童への指導に役立てる。創立者のことばや生涯について学ばせ、創立者の精神を受け継ぐ一人であることを自覚させる。	② 創立者の生き方や言葉は児童にとっても浸透しているが、ふるまいについては児童も保護者も教えを実行に移せていないと感じている場面がある。	目標 100% 98.8%	② まだ成長途中なので、様々な失敗を通して学んだことを次に生かすようにさせる。ふるまいの中に「賢明学院小学校の児童である」という思いが反映するよう、帰属意識を高める。(保護者も)
		③ 感謝と奉仕の精神を培う取り組みが各行事に組み込まれている。	③ 自ら感謝する心や人の役に立とうとする意識を高め、言葉かけや行動に表すことができるように指導する。また、宗教委員会やリヴィエジュニアが中心となって、奉仕の輪を広げ、賢明学院小学校の伝統としていく。	③ 行事については、保護者の満足度は高い。児童が「進んで参加できている」という意識は、謙遜もあるかもしれないが、高学年になるほど低くなる。	目標 100% 95.2%	③ 「進んで参加する」ことが、意識面だけの評価にならず、行動を自己評価できるよう、役割を持って参加する場面を増やしていく。
		④ 式典や行事を通じて宗教心を培う活動ができている。	④ 計画性をもって各行事を企画し、教職員一致のもと運営する。児童が主体的に活動できる場面を必ず用意して取り組ませ、宗教心を培う。	④教職員も宗教行事へのある程度一致した理解と願いを持って取り組んでいる。保護者や児童にも浸透しているが、もう少し「進んで参加している」という意識がほしい。	目標 100% 97.8%	④ 宗教教育に関しては、概ね良い評価がある。「とてもそう思う」を伸ばすよう、特色となるような発信の工夫をする。
2	安心できる学級の実現	① 楽しい学校生活が送ることができるよう児童への支援ができている。	① 毎朝のお祈り、調身・調息・調心、モジュール学習、朝の会を確保し、落ち着いた雰囲気の中で学校生活をスタートさせる。その日に起こった課題はその日のうちに解決できるよう努める。	① 友だちとの過ごし方や落ち着いた学校生活については、児童自身の捉え、保護者の捉え、教員の捉えとにずれが見られる。	目標 100% 94.5%	① 学年の特色や実態をある程度鑑みながらも、どの教員、どの学級にも共通する学習ルールや到達地点を明確にし、学校全体で連携して指導をしていく。
		② いじめ撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	② 日頃から児童一人一人の理解に努め、「けんしょうアンケート」の記述から実態を把握する。気になる事象を見逃さず、児童間の課題に迅速に対応し、指導する。	② 概ね高い評価の中であって、保護者、児童ともに「困ったときに先生に相談することができる」という思いは少し低い。	目標 100% 92.1%	② もともと昼休みの時間に教員が毎日清掃の担当に入っているうえに、高学年になると教科担任制も加わり、担任と関わる時間が少ない。児童の困りごとを聞いたり、トラブルの解消をしたりする時間が十分に取れるよう時程を見直すとともに、担任だけでなく、教科担当を含めた学年団チームで指導に当たる意識を持つ。
		③ 衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。食に対する感謝の心を養うことができている。	③ 手洗い、アルコール消毒の励行、給食エプロンを正しく着用させ、配膳から給食終了まで黙食を行う。食べ物を大切に作る態度、調理してくださった方々への感謝を込めて、残食を減らすように指導する。	③ 児童・保護者とも評価は高い。	目標 100% 95.8%	③ 黙食を守っているが、食に対する感謝の思いについては道徳や家庭科などさまざまな学習機会を使って深めていく。また、食事の時間をしっかりとれるよう、配膳から終了までのスケジュールの確認をする。

3	教師の指導 力向上と授業 改善	① すべての教科の授業の質の向上を目指して授業研究をする。	① 全教科で研究授業を行い、事前研、事後研を通じて研究を深めるとともに全員が公開授業を行う。私小連の研究会に参加し、他校の取り組みからも学ぶ。	① 教職員の評価を見ると、教材研究への意欲は高い。校内の研修に比べ、校外の指導実践や研究を取り入れての自己研鑽は評価が低い。	目標 100% 94.4%	① 校内での研修、研究授業を次の実践にフィードバックする仕組みを定着させる。教員が個々に研究テーマを持って指導法と教材の研究を行い、集めた情報を共有する場を設ける。
		② 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化する。	② ノート指導の充実とともに、タブレットの効果的な活用を行う。学習習慣の基礎が身につく指導を実践する。	② 保護者は、宿題の量やチェックについては高く評価している。基本的な学力の定着についても、保護者の評価は高い。一方で、児童は「分からないときに聞くことができる」の評価は低くなっている。保護者の児童の学力把握と、児童自身の学習の十分な理解にずれがある。	目標 100% 93.4%	② 保護者任せの家庭学習習慣の定着は難しくなっている。家庭学習、自主学習の取り組み方の指導を、学年に合わせて計画的に取り入れる。
		③ 国語力算数力を向上させるために、朝のモジュールを活用する。	③ 短時間のモジュール学習であっても、適切に評価し、学習意欲を高めさせる。自ら評価をさせ、能動的に学習を進められるようサポートする。	③ 学習が始まる前の、「脳の活性化」という本来の意欲を、低学年は実感しているようだが、高学年は評価が低くなっている。	目標 100% 80%	③ モジュール学習の目的や方法を再度検討。
		④ 情報機器を活用し、効果的な授業を展開する。	④ 一人一台の ICT 端末を効果的に活用させ、学習効果を上げる。	④ 高学年は様々なソフトを用途に応じて使えるようになり、有効に使う場面が増えている。	目標 100% 95%	④ 来年度は新しく TomoLinks を導入。ドリル学習の見直しも行う。学習効果については、丁寧に検証。
		⑤ 学習指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標達成に努めている。	⑤ カリキュラムを修正・発展させ、児童の実態に応じた指導計画を立て実践する。各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内外研修に参加する。	⑤ 教員はカリキュラム確認を行いながら、授業づくりを行う事を意識している。基礎学力の定着については保護者の満足度も高いが、発展的な学習については、中学校との連携含めて、課題がある。	目標 100% 87.6%	⑤ 賢明学院中学校と情報共有し、内部入試、入ってからの安定した学力のために必要なことを視野に入れて、家庭学習や自主学習のサポートをする。
		⑥ 児童自ら考え発言し、分かり易い言葉で伝え合うことができる授業が展開されている。	⑥ 学級経営を基盤とした学び合う集団作りに努め、ペア学習、小集団学習での学びをすすめる。	⑥ 児童の評価では、「自分の考えを進んで発表している」「授業の中で友だちと話し合って自分の考えを深めることができる」の項目が昨年に比べて大きく増加。「主体的・対話的な学び」を目指した実践が多く取り入れられている	目標 100% 93%	⑥ 「主体的・対話的な学び」が「深い学び」につながっているか、の評価項目を取り入れ、高い割合の高評価を目指す。
		⑦ 学級経営力向上のため、教室の整理整頓と朝の会・終わりの会の二点について指導力を高める。	⑦ 児童が主体的に進めることができる意欲付けと、実践力をつけるため、学級で目標を立てて整理整頓を行い、終わりの会での一日の振り返りを大切にする。	⑦ 「先生の話を中心に留めている」という項目は、児童も保護者も比較的评价が高い。整理整頓については自身で課題を感じている児童も多い。	目標 100% 90.4%	⑦ 「身支度をきちんとする」ということの大切さを教師からきちんと発信し、基本的なルールについてはどの先生、どの教科でも同じように指導できるよう連携する。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活 ＜基本的習慣を特に充実させる＞	① 賢明の挨拶、立ち止まって挨拶することの大切さを指導する。	① 伝統である「Stop bow and smile」を義務でなく、すすんで実践できるよう児童会主体でのあいさつ運動などに取り組む。	① 保護者、児童ともに評価は高いが、実体とは少しずれを感じる。	目標 100% 96.1%	① 賢明生としての帰属意識を高めると同時に、教員もいっしょに実践し、さらに浸透させる。
		② 集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	② 現在ノーチャイム制が効果的に作用しているが、発達段階に応じて、学年で指導する。	② チャイムがなくても行動することは身に着いてきている。沈黙移動についてはまだできていないという自覚がある児童も多い。	目標 100% 90.5%	② どの授業でも同じように指導を継続し、高学年になるほどできるようになる、という流れを作る
		③ 通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③ 児童自身が交通安全を意識し、公共交通機関利用の仕方について学ぶ機会を作る。奉献会の通安とも連携する。	③ 一部守れていない様子が見られる。携帯電話の使い方も含め、あいまいになっているルールもある。	目標 100% 95.8%	③ 賢明ハンドブックのルールが形骸化しないよう、現状の実態に合っているか一度確認し、そのうえで決まったルールは必ず守るべきものとして再発信する。（保護者にも）

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①コロナ禍の影響はまだ受けるだろうが、少ない機会を有効に使い精神や方針を伝えていく。 ②行事の開催も未確定だけに、日常生活で人間関係を作り、絆を深めるよう指導する。 ③共通の苦難を経験したことにより、自分ファーストでない生き方を身につけさせる。 ④クラスだけでなくクラブでの生徒間のすれ違いを初期の段階で発見し解決していく。	①「そう思う」と「とてもそう思う」が95.7%で、前年度よりも5.6P上がり、目標に到達した。 ②M 平均 93.7%、H 平均 93.1%だった。M は前年度から 2.9P 上昇、H は 1P 上昇した。H3 は目標に到達し、95.4%で1 番高かった。 ③M 平均 93.1%、H 平均 91.3%だった。M は前年度から 1.5P 上昇、H は 1.2P 上昇した。M1 は 98.3%で一番高かった。 ④M 平均 94.3%、H 平均 89.6%だった。M は前年度から 2.8P 上昇、H は 0.5P 下がった。M1 が 95%で一番高かった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ④95% ◆実際到達度 ①95.7% ②93.4%(MH 平均) ③92.2% (同上) ④91.9% (同上)	①粗食の活動や創立記念日また朝終礼などで時折建学の精神、祈りの大切さ、校訓について話す。 ②生徒の様子を休み時間や掃除時間に観察し、生徒と触れ合う時間や話す機会を大切にする。 ③相手の気持ちを考えてから行動できるように、また間違えれば素直に謝れるように諭し行動する。 ④トラブルがいじめに発展する前に、人間関係で悩む生徒の話を聞き、時間をかけて丁寧に対応する。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①近隣、地域の人たちにも挨拶できる生徒を育てていく。 ②ルールを守るはもちろんのこと、より高いマナーが身に付くよう指導する。 ③学年間クラス間で指導が数字にも表れるので、指導にばらつきがないよう確認し生徒に対応する。	①「賢明の生徒は挨拶が良くできている」保護者の評価が中学 90% (昨年 92%)、高校 92% (昨年 86%)。 ②「学校のルールやマナーを守っている」中学 88% (昨年 82%)、高校 85% (昨年 86%)。中学が高校に比べて 3%高くなった。 ③「学校は生活指導やモラル教育をしっかり行っている」保護者の評価が中学 86% (昨年 88%)、高校 93% (昨年 88%)。中学は学年によって 14%、高校は 6%の差があった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①91% ②87% ③90%	①授業終始の「挨拶」を全教員が大切にし、生徒に理解させることから徹底する。 ②ルールの目的を理解させ、生徒自らが自己指導能力を高められるように全教員で声掛けを行う。 ③すべての生活指導について、生徒と教員だけではなく、保護者にも理解してもらえる関係を構築できるように、連絡を密にとる。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①最初だけでなく、授業時間中生徒が集中できるよう授業に魅力を持たせる。 ②授業公開の新しい動きさらに拡大し、お互い参観をして授業の向上を目指す。地道な前進を心がける。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観する機会を増やし、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。	①生徒の評価が 90%、教員の評価が 94%で、昨年度より生徒は 1P 下がり、教員は 3P 上がった。 ②板書や資料に対する生徒の評価は 92%、教員の評価は 90%で、昨年度より生徒は 3P 下がり、教員は 3P 上がった。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価が 89%、教員の評価が 86%で、生徒は昨年度と変わらず、教員は昨年度より 5P 下がった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①90% ②92% ③89%	①生徒一人ひとり丁寧に指導し、全員が集中できるようにする。 ②相互参観をして、さらに質の高い授業の向上を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践するための研鑽を続け、積極的に授業に取り入れる。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①全体に対してだけではなくそのクラスに合った進路講演会などを実施して、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②カリキュラムを変更して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③入試状況の変化をしっかりと見極め、生徒たちの不安を解消しながら指導する。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは、89%と横ばいとなった。中学では 86%、高校では 91%であった。高校では高 3 が 93%、中学では中 3 が 95%と一番高かった。 ②全体が 91%と 1P 減。例年、中学の評価が高校よりも低くなる傾向がある。中学では 89%、高校では 94%となった。最も高かったのは、高 1 で、95%であった。 ③ (年度途中のため記載なし)	◆目標到達度 ①95% ②95% ③国公立 10 名など ◆実際到達度 ①89% ②91% ③年度末報告	①進路行事の意図を確認するとともに、なるべく早い段階で進路に対する生徒個別の目標を定め、それに向けて教員が協力して指導する。 ②授業内容を大学入試に対応するよう工夫し、生徒には教材・課題の取り組みが大学入試にどのように役立つかを説明していく。 ③入試情報を確実に収集し、生徒たちの不安を解消しながら指導する。

5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。	①その日に伝えることはその日に電話することをより徹底させ、保護者との連絡を密にする。	①96%の教員が家庭との連絡を密にし、生徒の指導に生かしていると考えているが、保護者は「そう思う」が88%であり、評価に差がみられる。数年前は中高で評価に差があったが、現在はほぼ同率。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90%	①保護者と連携できる学校として、保護者目線で必要な連絡をタイムリーにわかりやすく発信するよう心掛ける。
		②担任など一人で対応するのではなく、チームで対応している。	②管理職、学年団、スクールカウンセラー、養護、学年主任会など緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。	②保護者からの相談に対する満足度は昨年度と同じ92%だが、内訳としては中学が下がった分、高校が上がった結果であった。教員のチームとして問題にあたっている意識は4ポイントあがった。	◆実際到達度 ①89% ②92% ③91%	②保護者対応の基本を忘れず、個々の状態を考慮し丁寧に対応する。教員間では「報告・連絡・相談」を心がけ、チームで問題にあたる姿勢を崩さない。
		③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	③生徒たちが教員同士の一致をさらに実感できるよう、教員が同じ方向へベクトルを向け協力して問題の解決を図る。	③教員同士の協力について、全体評価は昨年度とほぼ同じであるが、生徒評価の「全くそう思わない」が4ポイントも減ったので協力体制への評価は前年より上がっているといえる。		③教員個人の意識は年々上がっているなので、各学年、教科、分掌が教育(内)にそって相互に協力し合う体制を整えていく。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。 生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。	①今後もコロナ禍のために人間関係に制限がかかる中、生徒の小さな変化に気づきすぐに対応する。	①「学校は楽しく有意義で満足している。」中学94%（昨年93%）、高校90%（昨年90%）。10月笑顔調査「1日1回笑顔になれる」中学98%（昨年96%）高校97%（昨年98%）であった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95%	①中高ともに行っている笑顔調査の結果をもとにできるだけ早く教員と生徒がコミュニケーションをとる。またチャレンジタイムを利用して、面談を行うことで、接する機会を増やしていく。
		②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。	②自分たちが普通だと思っている言葉遣いを見直し、改善していく。	②「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が中学86%（昨年88%）、高校93%（昨年88%）。中学は学年によって14%、高校は6%の差があった。	◆実際到達度 ①92% ②90% ③96%	②教員との関係が授業だけにならないように、その他の時間でも教員から積極的に生徒にふれあう意識を持つ。また学年の枠を超えて教員と生徒が関わる生徒会活動などでも関係性を構築する意識を持つ。
		③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	③コロナにも負けず、生徒たちが安心できる学校作りを協力して取り組む。	③「自分の居場所がある」中学95%（昨年96%）、高校96%（昨年96%）。中高とも昨年とほぼ同じ結果となった。		③生徒の様子を意識的に観察し、学年会議や主任会議などで共有する。面談や笑顔調査なども把握する材料にして、生徒の些細な変化に気づき、安心して学校生活が送れるように教員が連携する。それにより、生徒の居場所づくりについて意見を交わせる教員間の関係構築を目指す。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。	①今年こそ体育大会、秋麗祭、クリスマスブローなどの行事を実施し、生徒主導で作り上げていく。	①生徒評価の項目「生徒は学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加している。」は、中学96%（+1.5）、高校95.7（+0.1）。保護者評価の項目「生徒会活動は活発である。」は、中学75.6（+2.9）、高校80.7（+2.6）。教員評価の項目「クラブ活動や委員会活動について、活動計画を立て、実践した内容を記録に残し、次年度に生かしている」は、82.6（+11.7）であった。	目標到達度 ①90% ②85% ③90%	①生徒評価・保護者評価・教員評価、全ての学校評価で前年度よりプラスのポイントとなったが、目標到達度の90%には到達することができていない。目標到達度に到達するためには、保護者評価、教員評価を高める必要がある。生徒会で活動していることをHPなどに載せるなど、多くの人に知ってもらえるようにしていきたい。
		②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。	②実践的なボランティア活動を教員が共に始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動へつなげる。	②生徒評価の項目「生徒は、ボランティア活動に積極的に取り組んでいると思う」は、中学80.5（-1.7）、高校73.1（-1.9）であった。	◆実際到達度 ①86% ②77% ③93%	②今年度もボランティア活動を1年間を通して活発に実施することが難しかった。さまざまな場面で活動しているため、しっかりと計画を立てて実施する。
		③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	③限られた時間内で生き生きと充実したクラブ活動ができるように、活動を見直し工夫していく。	③保護者評価の項目「学校は、クラブ活動等の指導では、生徒を育てる事に努めている。」は、中学89.7（-1.3）、高校は89.1（+7.4）。教員評価の「クラブ活動や委員会活動において、動向を意識した助言・指導を行い、生徒を育て、活動の活性化に努めている」は、96.2（+18.1）であった。		③保護者評価の中学のポイントは下がったものの、高校はプラスになっている。また、教員のクラブ指導への意識も高いと感じられる。保護者・教員が連携をし、子どもたちにとって充実した部活動環境をつくる必要がある。

8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。	①各教科で大学入学共通テストの分析を行い、それを授業に生かしていく。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は 73%で 9P 上がった。	◆目標到達度 ①90% ②95%	①校内の研修や Find!アクティブラーナー、進路情報の発信など校内の取り組みを継続するとともに、外部研修会にも積極的に参加する。
		②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。	②オンライン授業で得たものを対面の授業にも生かし、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。	②授業内容を改善しているという教員評価は 96%で昨年よりも 2P 下がった。	◆実際到達度 ①73% ②96%	②オンライン授業で培った力を通常の授業にも活かし、常に授業を改善し続ける努力を重ねる。

9. 前期後期制、チャレンジタイムへの振り返り

設問 22) 今年度から始まった 45 分 7 限授業と前期後期制を知っていましたか。

知っている（知っていた）…95% 知らない（知らなかった）…5%

＊アンケート結果から、4 5 分 7 限授業と前期後期制への変更については保護者に周知できていた。

《自由記述欄について》

授業時間が5分短くなったことに関しては、集中力の観点から好意的にとらえている保護者が多く、批判的な意見はほとんどなかった。前期後期制に関しても、慣れないために違和感を感じるが反対する理由はないというような意見の保護者が多かった。その中でも長期休暇の期間がわかりにくいという声が多くみられたので、来年度行事予定にはわかりやすく記載した方がよいと思われる。また、考査回数が減ったことによる成績への影響（範囲の増加による負担や考査欠席の扱いなど）を心配する声もあった。1 年終わったので3 学期制と比較して精査してほしいという意見もあったので、問題点等について検討する機会を設け、2 学期制の行事予定をよりよいものにし保護者の理解を得られるようにしていく。

設問 24) 今年度から始まったチャレンジタイム（16 時 05 分～16 時 25 分）を知っていましたか？

知っている（知っていた）…46% 知らない（知らなかった）…54%

＊アンケート結果から、チャレンジタイムについては保護者への周知を徹底することはできていなかった。

《自由記述欄について》

チャレンジタイムを知らないと回答した保護者が半数以上あり、知っていると答えた保護者の中でも内容がわかっていない保護者も多かった。来年度なんらかの形で周知する必要があると思われる。放課後の時間に余裕ができたことや振り返り・自主的な学習時間・先生と話す時間等として有意義に過ごせているという回答も多くみられたが、一方で「全クラス・全学年に浸透しているのか検証してほしい」「効果性を検証してほしい」「5 0 分 7 時間でいいのでは」「クラスによってやる・やらないがあるため、やっている子は部活に遅れたようになる」というクラスや学年によって差を感じ、学校の取り組み体制に疑問を感じている保護者も少なからずいる。1 年間の取り組みを検証し、学校としての方向性を一致させ共通認識のもと有意義な放課後の時間にできるように改善してかなければならない。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員が進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	生徒の発達や時代の変化に適切に対応できる宗教教育を行うために、SHR などの祈りや沈黙を大切にし、自分と向き合い、祈る姿勢を身に着ける。 発達課題や健康状況、家庭的背景の状況について教職員、養護教諭、カウンセラーと情報共有の連絡会を定期的に行い、個別最適化できる体制づくりをする。 個別相談・三者面談などを定期的に行い、個々に応じた指導計画を作成する。	①肯定的評価が5ポイント増えて、年々増加している傾向にある。 ②昨年より7ポイント増えた。担任を中心に、一人ひとりが抱える問題に対応してきた。 ③クラスホームルームや特別活動などで仲間づくりに取り組んだ。生徒、保護者ともに90%であった。 ④昨年より1ポイント減となった。充実した学校生活を送れるよう、生徒に対応していく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90 ④90% ◆実際到達度 ①96% ②97% ③90% ④91%	祈りや沈黙を大切にし、自分と向き合い、祈りの気持ちを限られた時間に生かすことができるよう導く。 教職員、養護教諭、カウンセラーと情報共有の連絡会を定期的に行い、地域との連携を図るなど個々の状況に応じた指導を行う。 個別相談・三者面談などを定期的に行い、生徒一人ひとりに適した学校生活を具体的に示す。様々な事情を抱える生徒の事象を客観的に捉え、個々に応じた指導計画を作成する。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髮・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	生徒の状況や時代即した規則の見直しも検討し、SNS の問題などにも対応する。そのために外部講師による講演なども導入する。 入学前からの個別相談、事前面談などで、生徒のみならず保護者に対してもルールやマナーについての情報を発信していく。入学後は担任を中心とした丁寧で、熱意のある指導を展開する。	①生徒の評価が93.9%あり高評価となった。 ②昨年4ポイント減の項目であったが、今年度は2ポイント増となった。適切な指導を継続していく。 ③昨年より1ポイント増の結果となった。生徒・保護者・教職員ともに90%を超える結果となった。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①91% ②90% ③92%	SNS の問題などにも対応するため、堺警察署など、地域の外部講師による講演などを導入する。 入学前からの個別相談、事前面談を通じ、生徒のみならず保護者に対してもクラス会などを通じ、学校生活のルールやマナーについての情報を発信し協力を促す。 入学後は担任制による丁寧で、熱意のある指導を展開する。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	学び直しや習熟度別授業、級別の英検対策講座などの「学習サポート」においては、各教科の連携や学年を超えた意見交換を行い、生徒の学習状況を把握する。生徒一人ひとりを理解し、個々の特性に応じた学習指導を行う。	①生徒の評価が97%となった。単位習得のためのスクーリングにおいて積極的に学習に取り組んでいる。 ②目標到達度に1ポイント届かなかったが、年々増加傾向にある。 ③昨年度より4ポイント増となった。「学習サポート」の充実是新コースの学びの特長となるであろう。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①96% ②89% ③94%	「学習サポート」においては、学び直しや習熟度別授業、級別の英検対策講座を行い基礎学力の向上を目指す。また、歴史的分野についての授業を展開し、個々の得意分野を伸ばし、進路実現に応じた学習指導を行う。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導，学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	生徒と保護者を対象とした学年別の進路講演会開催や外部の合同進路相談会などの引率を通し、個々の進路相談による個別サポートを展開し進路指導の充実を図る。 大学のキャンパス体験や専門学校での職業体験を特別活動で行い、幅広い選択肢の中から、生徒が主体的に進路を探る。 生徒の才能を開花させるための新たなコース制設置などの発展を目指す。	①肯定的評価は昨年度と同じ87%の結果となった。目標に到達するため、進路指導について見直す必要がある。 ②昨年より6ポイント増加したが、目標到達には届かなかった。 ③全体の評価が92%となった。学習サポートが進路指導と連携し、学力の向上と共に進路結果に結び付けたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②83% ③92%	学年別の進路講演会、個々の進路相談による個別サポートを展開し進路指導の充実を図る。 大学のキャンパス体験や専門学校での職業体験を特別活動で行い、幅広い選択肢の中から、生徒が主体的に進路を探る。 生徒の才能を開花させるためのスタンダードプラスコースを設置し、生徒にとってより健全で社会性のある生徒を育成する。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく，教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み，統一した指導ができている	生徒を正しく導いていくために担任制を継続していくとともに、教職員全員で共通理解をもつ。担任を中心に保護者と密な連携を行い、学校の方針、生徒の現状、働きかけ方を明確化し、教職員同士で共有する。 kenmei.info は入学時に全員登録させて、学校、保護者、生徒のスムーズな連携を図る。	①全体の評価が95%であり、昨年と同様に高評価となった。 ②昨年より8ポイント増加した。生徒一人ひとりを教職員全体で指導していく。 ③昨年より2ポイント増加となった。毎年、高い評価を得ている項目であるため、統一した指導を行うよう取り組む。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①95% ②95% ③92%	担任制を継続し、生徒の個々の状況に応じた指導するとともに、教職員全員で情報を共有し指導へと繋げる。 担任を中心に保護者と密な連携を行い、学校の方針、生徒の現状を明確化し、指導方針について教職員同士で共有する。 保護者、生徒のスムーズな連絡を図るため、kenmei.info は入学時に全員登録させる。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	入学前の個別相談や事前面談を今後も継続していき、生徒一人ひとりの理解に務めることを習慣化していく。 今年度実施した医学部との研修会のように外部の様々な機関から学び、生徒の多様性に配慮する教育を展開する。そして、生徒や保護者が安心して過ごすことのできる学校や生徒の個を活かすことのできる環境づくりや異なるニーズや視点を理解していく。	①昨年より 8 ポイント増加となった。入学後も生徒一人ひとりを適切に対応していく。 ②一昨年より 3 ポイントずつ増加している項目である。生徒との信頼関係を構築していく。 ③スクーリング、特別活動、学習サポートなどを通じて、生徒一人ひとりの気持ちに寄り添った取り組みを継続し、生徒の居場所づくりに努める。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①95% ②90% ③91%	入学前の個別相談や事前面談を通じ、生徒一人ひとりの理解に努める。 外部の様々な機関から学ぶ研修会への参加を促し、報告会を通じ生徒の多様性に配慮する教育を展開する。 生徒や保護者が安心して過ごすことのできる学校や生徒の長所を伸ばすことのできる指導を習慣化する。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	特別活動が学校生活や単位習得、進路指導につながるよう「学びの要」として発展していく。「仲間づくり、文化・芸術、自然科学、キャリアガイダンス」とカテゴリーを分けて、系統的に学習することで、生徒が成長できるよう活動を計画・実施する。 LOOK BACK SHEET（活動後の振り返りシートに）については内容を見直していき、新たな自己分析をすることにより問題解決を実践し、新しい知識を習得していくことの大切さも学ばせる。 ボランティア活動においては特別活動の一環として取り入れる。地域の清掃活動や特別活動の運営ボランティアなど、社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験活動を行う。	①特別活動は「学びの要」となっている。生徒にとって興味・関心を持たせる活動へと発展を目指していく。 ②昨年より 15 ポイント増加した。今年度は堺警察署と連携しボランティア活動を実施した。式典行事など多くの生徒がボランティア活動に参加できるよう検討していく。 ③肯定的評価が 97%であり、高評価となった。今年度はアカデミックな活動やボランティア活動などを取り入れた。生徒・保護者にとって深い学びの中から社会生活を送る上で必要な資質・能力を体得させたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①99% ②83% ③97%	ボランティア活動においては特別活動の一環として取り入れる。 今年度より発足した堺警察署と連携したボランティア活動など、社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験活動を行う。 特別活動が学習活動や協調性を育むとおともに、進路選択など「学びの要」として発展していく。そのため、「仲間づくり、文化・芸術、自然科学、キャリアガイダンス」とカテゴリーを分けて、系統的に学習することで、生徒が成長できるよう活動を計画・実施する。 新しい知識を習得していくことの大切さも学ばせるため、新たな活動を展開する。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的行われている。	各分掌や担任が連携を取り一定の順序や、法則に従いながら、一人ひとりの生徒や保護者の思いに丁寧に対応する。 生徒数の増加にともない、通信制の生徒全員が一堂に会することが困難になってきたため、新たな形を模索することもできた。新たな通信制教育のための改善と効率化を目指し、発展する機会であると捉えて、本校らしい教育活動へと進化していく。	①昨年より 3 ポイント減となった。教職員同士での情報共有を図りたい。 ②昨年より 2 ポインと増加となったが、目標到達には届かなかった。次年度からのコース制において生徒が登校し学びたくなるよう進化したい。 ③昨年度と同様の 93%であった。通信制を選択する生徒にとってより良い学びとなるよう各分掌の役割・責任を明確化し、対応していく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①86% ②87% ③93%	スタンダードプラスコースの設置による登校日数の増加にともない、新たな通信制教育のための改善と効率化を目指す。スタンダードプラスコース・土曜コースの新入生と在校生が本校に誇りを持たせるよう望ましい校風へと発展させる。本校らしい教育活動へと進化するため、各分掌や担任が連携を取り、一人ひとりの生徒が成長し、・保護者の信頼を得られるよう丁寧に業務をすすめ、社会に求められる通信制高校となるよう努める。

2024年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

<評価委員名>

委 員 名	長谷川 幸則（保護者）	久保 善見（保護者）
-------	-------------	------------

<委員会実施日>

実 施 日	第1回 2024年5月14日（火）	第2回 2024年11月15日（金）	第3回 2025年2月22日（土）
-------	-------------------	--------------------	-------------------

<評価の概要>

幼稚園	- 保護者の多数は、保育参観にて子どもの園での生活の様子を間近で見られることは良い機会だと感じているが、一方で、訪園すると園の施設に関して気づく点があり、保護者の中には安全でないと感じる箇所もある。保護者会も含めて、検証と対策を進める必要があるのではないかと感じた。 - 大型の遊具の導入や天然芝など、園児の受け入れ態勢がどんどん整ってきていると感じる。園として、園児が増えることは良いことだと思うが、今後に向けては、全員が小学校に上がっていける体制を構築していったほしい。また、英語教育も充実も引き続き取り組んでほしい。
小学校	- 児童への宗教（道徳）教育がしっかりとできており、嬉しく思う。行事に参加する児童を見ていても、本校には積極的な児童も多いと感じており、今後の成長にも良い影響になるのではと期待している。ICTを活用した教育に関しては、保護者への理解が深まるよう、取り組んでいただきたい。 - 児童が、学校に楽しく通っていることは、非常にうれしく思う。一方で「いじめの撲滅」に取り組むことはもちろん大事だが、携帯電話などを利用した先生方の目の届かないところでのいじめがこわい。携帯電話やスマートフォンの使い方指導をしっかりしていただけるとありがたい。
中 高	- 生徒たちが社会に出るための教育を日々しっかりといただいていることに感謝している。ただ来年度は新入生が増えるとのことで、今までよりも生徒一人ひとりへの教育が手薄になるのではないかと、教育面への心配の声がある。手薄にならないよう教育面への充実に取り組んでほしい。 - 高校が無償化となったことで人数が増えたことは良いことだと思うが、一方で、学年集会など保護者が集まる機会が少なくなってしまうのでは、との懸念がある。保護者への学校やカトリックの教えに対する理解が低くなってしまわないよう、取り組んでほしい。
通信制	- 通信制に関しては、毎年高い評価を得られていると理解している。生徒人数も年々増えてきており、その分生徒が抱える問題も多種多様になってきていると思うが、今後も高い評価で継続できるよう取り組んでほしい。来年度新設されるコースで登校日が増えることも、通信制の発展に期待したい。 - 通信制が開設された当初は、生徒を通学させることに注力されていると理解していたが、年々活動内容を発展させ、現在では進路までしっかりと指導していただいていることが実績で分かる。引き続き教育活動の発展に取り組んでいただきたい。
総 括	全所属を通して、先生方の子どもたちへの熱心な指導、教育を行なっていただいていることについて感謝したい。各所属で実施している行事も工夫をし、より良くなるよう取り組んでいることは評価したい。ただ、園や学校と、保護者とのコミュニケーションが不足している点、SNS等を活用した情報発信などに課題がある点に関しては、保護者会を実施するなど、改善できるよう取り組んでほしい。また、幼小中高の全校種でスムーズな内部進学ができる体制の構築も是非検討をいただきたい。